

指導と評価の年間計画・評価規準の作成について

2 地理歴史

<目次>

I	「指導と評価の年間計画・評価規準の作成の手引き」	P 1～2
II	「指導と評価の年間計画」(世界史B) <例>	P 3
III	「評価規準と単元計画」(世界史B) <例>	P 4
IV	「学習指導案」(世界史B) <例>	P 5

I 「指導と評価の年間計画」及び「評価規準と単元計画」の作成の手引き

1 「指導と評価の年間計画」について

これは、次の2の「評価規準と単元計画」の全単元について、その概要を記述したものである。生徒の学習活動に対するより適正な評価、及び生徒の学習の改善に生かされる評価（指導と評価の一体化）の実現を目指して作成する。

これまで作られてきた指導計画は、多くの場合、学習内容（指導内容）を単に1年間の授業時間数に対して配分しただけに留まっていたが、この「指導と評価の年間計画」では、「学習項目」、「授業時間数」、各授業ごとの「主な学習活動（指導内容）と評価のポイント」、「評価方法」を記述する。

2 「評価規準と単元計画」について

学習指導要領に基づく「評価規準と単元計画」は、言い換えれば、評価規準を盛り込んだ「単元ごとの指導と評価の計画」である。次の内容構成で作成する。

◎「単元名」、「単元の目標」、「単元の評価規準」、「指導と評価の計画（○時間）」を示す。なお、「単元」とは、ほとんどの教科書の「節」に該当するものである。

- ・「単元の目標」

実際の使用教科書等に基づいた授業の進度に沿って単元ごとに示した目標。学習指導要領の項目ごとのねらいをもとに記載する。

- ・「単元の評価規準」

単元ごとに4観点別に示した評価規準。「内容のまとまりごとの評価規準」を単元の内容に即して具体化したもの。

◎「指導と評価の計画（○時間）」を示す。そこには、「次程」、「学習活動」、「評価の観点」、「評価規準等」を示す。

- ・「学習活動」、「評価の観点」

上記の1の「指導と評価の年間計画」の「各授業ごとの主な学習活動（指導内容）と評価のポイント」に反映されていなければならない。

- ・「評価の観点」

「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「資料活用の技能」及び「知識・理解」に評価の観点を整理し、各教科等の特性に応じて、適切に設定しなければならない。

- ・「評価規準等」

評価規準は、「目標」を具体化したものであり、目標が生徒の学習状況として実現された状況を具体的に想定して示す。

- ・「評価方法」

評価方法については、各学校で各教科・科目の学習活動の特質、評価の観点や評価規準、評価の場面や生徒の発達の段階に応じて、観察、生徒との対話、ノート、ワークシート、学習カード、作品、レポート、ペーパーテスト、質問紙、面接などの様々な評価方法の中から、その場面における生徒の学習状況を的確に評価できる方法を選択していく。

※平成24年3月に、国立教育政策研究所教育課程研究センターから、「評価基準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 地理歴史）」が示され、次のURLからダウンロードすることができる。

http://www.nier.go.jp/kaihatsu/hyouka/kou/02_kou_tirirekishishi.pdf

「評価規準と単元計画」＜例＞

(1) 単元名：○○○○

(2) 単元の目標

ア ○○○○○○○○○

イ ○○○○○○○○○

ウ ○○○○○○○○○

エ ○○○○○○○○○

(3) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用 of 技能	知識・理解
・ ○○○○○○○○ ・ 末尾の表現 (例)「～に対する関心と課題意識を高めている。」 「～について意欲的に追究している。」等	・ ○○○○○○○○ ・ 末尾の表現 (例)「～について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。」等	・ ○○○○○○○○ ・ 末尾の表現 (例)「～から有用な情報を適切に選択している。」 「～を図表などにまとめたりしている。」等	・ ○○○○○○○○ ・ 末尾の表現 (例)「～を理解し、その知識を身に付けている。」等

(4) 指導と評価の計画 (○時間)

曜日	学習活動	関	思	技	知	評価規準等
第一次 (○時間扱い)	【ねらい】 ○○○○○○○○ ・ 末尾の表現 (例)「～をつかませる。」 「～を捉えさせる。」 「～について理解させる。」 「～を展望させる。」 「～を高めさせる。」 「～について説明させる。」 「～を見いださせる」 「～について考察させる。」 「～を表現させる。」等					
	・ 学習活動の主な項目を記載する。				・ 該当する評価の観点に、●を記載する。	・ 評価の規準及び具体的な評価の方法を記載する。
第二次 (○時間扱い)	【ねらい】 ○○○○○○○○					

Ⅱ 「指導と評価の年間計画」（世界史B）＜例＞

到達目標 【学習指導要領】		・世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特徴を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。			
到達目標に向けての具体的取組 【指導上の留意点】		・歴史的事象に対する興味・関心を高め、主体的な学習態度を育成する。 ・資料を多面的・多角的に考察し、読み解く技能を習得させる。 ・人間としての在り方生き方に関わる基本的な事柄を理解させ、幅広く知識を身に付けさせる。			
月	章	学習項目	時間	主な学習活動(指導内容)と評価のポイント	評価方法
4	世界史への扉【主題学習】 ア 自然環境と人類のつながり		2	・自然環境の違いから農耕民と遊牧民の生活の違いについて考察する。中学校社会科の知識を活用し、地理や日本史との関連で考察する。	観察 ワークシート
	序章	先史の世界	1	・人類の進化の過程を概観し、人類史における農耕・牧畜の開始の意義を考察し、自然環境と地域世界の形成との関わりを把握する。	観察 ワークシート
	第1章	1 古代オリエント世界	12	・オリエント文明の成立と発展、イラン民族の活動などを中心に歴史を概観し、現代に与えた影響を考察する。	観察 ワークシート 小テスト レポート
5		2 ギリシア世界		・地中海世界の風土や、ギリシア・ローマ文明の特徴を理解し、ヨーロッパ文明とのつながりについて考察する。	
		3 ローマ世界			
	世界史への扉【主題学習】 イ 日本の歴史と世界の歴史とのつながり		2	・日本と世界の諸地域の接触・交流について、技術や文化から考察し、日本の歴史と世界の歴史のつながりに気付く。	観察 ワークシート
6	第2章	1 インドの古典文明	12	・独自の宗教や社会制度を持つ南アジア世界の形成過程に関心をもち、その特性を把握して基本事項を理解する。	観察 ワークシート 小テスト 前期中間考査
		2 東南アジアの諸文明		・東南アジアにおけるインド・中国文明の受容と影響を概観する。	
		3 中国の古典文明		・黄河文明、秦・漢帝国の成立と発展を中心に、古代中国の歴史の展開を概観する。	
7		4 南北アメリカ文明		・南北アメリカ文明に関する写真資料を活用しながら、その特色を理解する。	
	世界史への扉【主題学習】 ウ 日常生活にみる世界の歴史		2	・衣服について、民族による差異を自然環境や生活・文化との関連で捉え、その時代的変遷に着目して服飾意識の変化に気付く。	観察 ワークシート
	第3章	1 草原の遊牧民とオアシスの定住民	9	・映像資料などを通じて、内陸アジアの自然と風土や諸民族の生活に関心をもち、	観察 ワークシート 小テスト レポート
8		2 北方民族の活動と中国の分裂		・農耕民族と遊牧民族の様々な接触を通して、東アジア文化圏が特色ある発展を遂げていく様子を理解する。	
9		3 東アジア文化圏の形成		・唐王朝が東アジアにおいて果たした役割を隣接諸国の動向などから考察する。	
10	【主題学習】 時間軸から見る諸地域世界		2	・既習の範囲から一地域を選び、時間軸に沿って歴史的事実を整理し、その因果関係について考察する。	観察 ワークシート
	第4章	1 イスラーム世界の形成 2 イスラーム世界の発展 3 インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化 4 イスラーム文明の発展	8	・イスラームの成立を政治的・社会的背景から整理し、その特色を捉える。	観察 ワークシート 小テスト 前期期末考査
				・イスラーム世界の拡大に伴う社会変化を捉え、多角的に考察する。	
11				・イスラーム文明の基盤や特徴に関心をもち、形成されたネットワークの影響について考察する。	
	第5章	1 西ヨーロッパ世界の成立 2 東ヨーロッパ世界の成立 3 西ヨーロッパ中世世界の変容	15	・東西ヨーロッパ世界が形成されていく過程を地域性に着目しながら概観し、それぞれの特性について理解する。	観察 ワークシート 小テスト
				・十字軍や国土回復運動などの背景に注目しながら、その動きがヨーロッパ世界に与えた影響について理解する。	
	第5章	4 西ヨーロッパの中世文化	1	・中世文化の特色とキリスト教会の果たした役割を関連付けて考察する。	ワークシート
12	第6章	1 トルコ化とイスラーム化の進展 2 東アジア諸地域の自立化 3 モンゴルの大帝国	9	・内陸アジアにおけるトルコ化とイスラーム化の進展を理解する。	観察 ワークシート 小テスト 後期中間考査
				・宋代の社会経済の特色について、資料を活用しながら理解する。	
				・モンゴル帝国の興亡と、その活動がもたらした諸地域世界への影響について多角的に考察する。	
1	【主題学習】 空間軸から見る諸地域世界		2	・諸地域世界の接触や交流を地図を活用しながら整理し、空間的なつながりを理解する。	観察 ワークシート
	第7章	1 東アジア世界の動向 2 清代の中国と隣接諸地域 3 トルコ・イラン世界の展開 4 ムガル帝国の興隆と東南アジア交易の発展	14	・明・清帝国と隣接諸国との関係を学び、16～18世紀のアジア諸地域世界の特徴を理解する。	観察 ワークシート 小テスト レポート
				・イスラーム専制諸国家の統治の特色と共通点を考察し、ヨーロッパ諸国の進出に伴う社会の変容について理解する。	
2・3	第8章	1 ヨーロッパ世界の拡大 2 ルネサンス 3 宗教改革 4 ヨーロッパ諸国の抗争と主権国家体制の形成		・14～15世紀のヨーロッパ社会の変動に着目し、16世紀以後のヨーロッパ世界拡大の背景を理解する。 ・地図や写真資料などを活用する。 ・主権国家体制の特色とその形成過程を、各国の状況や国際関係に注目しながら理解する。	観察 ワークシート 小テスト 学年末考査
合計時間数			105		

Ⅲ 「評価規準と単元計画」（世界史Ｂ）＜例＞

単元名	イスラーム世界の形成
-----	------------

□単元の目標 イスラーム世界の成立の背景と特質をつかませ、アラブ人によるイスラーム帝国の形成と展開について理解させる。

□単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
イスラーム世界の拡大と交流の活発化に対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。	イスラーム世界の形成と拡大及びイスラームの特色を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	イスラームに関する図版や写真などの資料から有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。	イスラーム世界の形成と拡大の過程についての基本的な事柄を把握し、その知識を身に付けている。

□指導と評価の計画（３時間）

次 程	学習活動	評価の観点				評価規準等
		関	思	技	知	
第 1 次 （ 1 時 間 扱 い ）	【ねらい】 イスラーム世界に興味をもたせ、イスラームの成立の背景と特質を考察させる。					
	○イスラームに対してもっているイメージを発表する。	●				・イスラームの特質について関心を高め、意欲的に追究しようとしている。 （挙手・発言）
	○『クルアーン』などの資料から必要な情報を読み取り、イスラームの教義についてまとめる。		●			・生徒同士、意見交換しながら、イスラームの特色をまとめている。
	○当時の社会変化とイスラーム成立との関係について、整理する。					・イスラームの成立の背景について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果について適切に表現している。 （ワークシート）
第 2 次 （ 2 時 間 扱 い ）	【ねらい】 イスラーム帝国の成立前後を比較し、イスラーム世界の拡大による社会変化を考察させる。					
	○征服活動の進展について、地図を活用して整理する。			●		・有用な情報を適切に選択して、地図上に表す活動を通して、世界史の空間的なつながりに着目して整理している。 （ワークシート）
	○独立王朝や軍事政権の成立などにより、イスラーム世界が分裂していく過程を整理する。					
	○征服活動の原動力は何か、考察する。		●			・生徒同士、意見交換しながら、イスラーム世界の形成と拡大及びイスラームの特色を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。
	○イスラーム帝国成立前と成立後の社会構造の違いを、その歴史的背景を踏まえて考察する。					
	○イスラーム帝国の成立と、イスラーム法の発展を関連付けて考察する。					（観察、ワークシート）

IV 「學習指導案」(世界史B) <例>

教科（科目）	地歴公民（世界史B）	単元名	イスラーム世界の形成
本時の主題	イスラーム世界に興味をもたせ、イスラーム世界の成立の背景と特色を考察させる。		
本時の目標	①イスラームの特質について関心を高める。 【関・意・態】 ②イスラーム世界の成立の背景について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果について適切に表現することができる。 【思・判・表】		
過程	指導の内容	学習内容	指導上の留意点・観点別評価
導入	イスラームへの関心を高めさせる。	○イスラームについて イスラームの生活習慣について知っていることはあるか。 ・生徒の知識やイメージを確認する。 ex. 断食、女性のベール、食物の禁忌（マイナスのイメージ） ○イスラームの広がり ・資料集を用いて、世界の宗教分布・宗教別人口を確認し、その広がりを確認する。	・各自のもつイスラームに対する認識を発表したり、生徒同士で意見交換することができる。 ・生徒のもつイメージと、ムスリム人口の多さのギャップから、イスラームに関心をもたせる。
展開	イスラームの教義について整理する イスラームが成立した背景について考える	○イスラームの教義 様々な生活習慣を創り出した根源はどこにあるのか。 (S) 何のために様々な規制があるのか、予想する。 (T) 生活習慣を創り出した根源や信仰の柱となっているものが『クルアーン』であることを確認し、『クルアーン』の実物を見せる。 イスラームの教えとはどのようなものなのだろうか。 (T) イスラームの教義を簡単に整理する。 (S) 『クルアーン』の一部を用いて、実際にどのような形で教義が示されているのか、調べる。 『クルアーン』とはどんなものなのだろうか。 (S) 『クルアーン』の詠唱を聞く。 (T) 再度『クルアーン』（実物）を生徒に示し、何語で書かれているか確認する。 (T) 『クルアーン』はアラビア語で書かれ、アラビア語で詠唱されるものであることを説明する。 ○イスラーム成立の背景 なぜこのような考え方が登場してきたのだろうか。 (T) 従来のアラブ社会の特色（血縁的な部族社会、多神教など）について確認する。 (S) 6世紀後半以降の西アジア情勢について確認する。 (S) アラブ社会の変化の中で、ムハンマドの主張が受け入れられたのはなぜか考える。	・生徒同士で意見交換をすることができる。 ・『クルアーン』の重要性を具体例（クルアーン焼却問題など）を挙げて説明する。 ○生徒同士で意見交換をしながらか、『クルアーン』を読み取ることで、イスラームの特質に、関心を高め、意欲的に追究しようとしている。【関・意・態】（机間指導、ワークシート） ・クルアーンの詠唱を聞き、その印象を述べることができる。 ・アラビア語という共通点がイスラーム世界の広がりに貢献したことを示唆する。 ○既習内容を参考にして、当時の社会情勢について確認しながら、生徒同士で意見交換し、それを発表することができる。 【思・判・表】（ワークシート）
まとめ	本時のまとめ	○まとめ (T) ムハンマドの主張が「信仰」という新たな絆を生んだことを説明する。 (S) 自己評価、本時の感想を記入し、ワークシートを提出する。 ○次時の予告	○本時への取組を自己評価させる。

※ ○印は、記録に残す評価。